志段味カルタ散策マップ

歴史・文化・自然…「志段味カルタ」に詠まれた様々な志段味の魅力をご紹介します

●散策・見学時のお願い
近隣住民、通行者、所有者のご迷惑にならないよう、節度ある行動を心がけてください

「志段味」の由来

尾張神明帳集説本之訂考（嘉永3年(1850)）に「志談（しだみ）は、下垂水（しだみ）にて尾張山水のしたたるより地名となれり」と記されています

「クダキツネ」

昔、病人がおかしな仕草をすると、病人の枕元に油あげを置き、それがなくなっていればクダキツネが憑いたと判断されました。クダキツネに取りつかれた病人が「わしは○○寺の稲荷だ」と言ったこともあったとか。

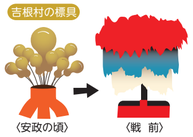
～行事・風習～

おまんと（馬の塔）

神明社→濁り池→観音寺→八幡神社を経て龍泉寺へ

標具（ダシ）と呼ばれる札や御幣を立て、豪華な馬具で飾った馬を社寺へ奉献する神事。吉根、大森、篠木の3合宿が龍泉寺へ献馬しました。吉根合宿には、吉根村を端馬にして上・中・下志段味村、上・中・下水野村が参加し、昭和10年頃まで行われていました。

吉根村の標具



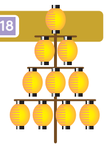
〈安政の頃〉　〈戦　前〉

提灯山

地図番号 8 13 18

8月には百八灯の提灯を取り付けた提灯山が立てられ、提灯祭りが行われています。

上志段味：勝手社
中志段味：諏訪神社
下志段味：八幡神社



日が沈み月が昇るまで「オタチマチ」 廿二夜様

地図番号 8 13 18

月齢で二十二日の夜に月待ちをすれば願い事が叶うという月待信仰の一つ。上・中志段味は旧暦7月22日（廿二夜様）、下志段味は23日（廿三夜様）、吉根は8月15日に氏神様に集まり、立ったままで月が昇るのを待つ「オタチマチ」という願掛けをしました。

勝手社（廿二夜塔）

諏訪神社（廿二夜塔）

八幡神社（廿三夜塔）

念仏講

旧暦の14日に行っていたことから、「十四日念仏」とも言います。夕食後、毎月の交代宿に集まり、仏前でお経をあげます。

尻据えぼた餅

婚礼の後、手作りのきなこ・あんこの大きなぼた餅を、新夫婦が一つ皿から一緒に食べました。この家に腰を据えて生活を始めるようにと、二人の門出を祝う近隣の人々の願いが込められていました。

浮塵子（うんか）送り

稲の花の出来る頃、稲に群がる浮塵子の大群を追い払うために、夏休みの子どもたちが太鼓を叩きながら「ウンカの神送りのーホーイホイ」と畦道を歩き回りました。

弘法様

4月21日（戦前は旧暦3月21日）を弘法大師忌として、弘法様にお団子やお菓子をお供えし、参拝に訪れた近隣の方にも振る舞います。子ども達は家の前に立てられた幟を目印に訪問し、「お接待」をいただきます。

月見どろぼう

秋の名月（旧暦8月15日）に、軒先や玄関にあるお供えを子どもたちが盗み食いしてまわるという風習。
盗み食いされるほど縁起が良いとされ、お供えする側も、多めに盗みやすい所に置きます。

茅の輪くぐり

旧暦6月30日、尾張戸神社境内で行われる祓いの行事。毎年新しい茅で直径約2mの小判型の輪を作り、神官を先頭に8の字型に3回、輪をくぐり抜けます。その後、輪から茅を抜き取って小さな茅の輪を作り、各自の戸口の上に掛けて家内安泰を願います。

秋葉講

この地域の秋葉講は「廻り秋葉様」。遠州秋葉様のご分霊が講に参加している地区を巡回し、参拝する方式です。
各掛け軸や提灯などを入れた唐櫃を地区境にまで迎えに出て、寺院などを宿にし、翌日次の講へ廻します。

溝せり

長戸川にはかつて唐曽溝、牛毛溝、吉田溝の3本の小川が合流しており、そこにはウナギやドジョウがいました。
この川と溝を区域で分け、八幡神社でお酒を飲みながらそこの魚を1年間捕る権利を買う競りを行いました。
競りの売上は全て消防団の基金にしていました。

「吉根」の由来

この辺りは桔梗が多く、「桔梗（きちこう・ききょう）」だった地名を人々が「キッコ」と呼びならわしたことから吉根と書くようになったという説が有力です

「人柱となった和尚」

昔この地にあった東禅寺（寛永13年(1636)に退転し無寺）の通源和尚は、庄内川の氾濫による飢饉・疫病をなげき悲しみ、上流の岐阜県恵那市～行き、延宝元年(1673)その地に寺を再興しました。
和尚は自ら造った石室に弘法大師の石像を祀いて入り、食を断ちお経を唱えながら仏になったといいます。

「志段味カルタ」でふるさとめぐり

～東谷山～

東谷山

地図番号 4 10

市内最高峰で標高198.3m。ニホンカモシカ（特別天然記念物）やムササビ、ニホンリスも生息するほか、生きた化石とも呼ばれるシデコブシが数多く自生するなど、貴重な自然が残されています。

東谷山山頂

地図番号 4

尾張戸神社・尾張戸神社古墳（国指定史跡）

尾張国造尾張氏の始祖と伝えられている天火明命、天香語山命が祭神。かつては熱田神宮に次ぐ大社であったといわれ、名古屋城の鬼門の守護神として尾張藩主徳川氏より崇敬されました。

4世紀前半の古墳の上に建っています

テーブルストーン

横穴式石室の天井石が風雨等で露出したもので、テーブルのように見えることからテーブルストーンと呼ばれるようになりました。昭和38年、東谷山3号墳から現在地に移築。

中社古墳（国指定史跡）　地図番号 4
南社古墳（国指定史跡）　地図番号 10

中社古墳…前方後円墳
墳丘長約63.5m

南社古墳……円墳
直径約30m

東谷山フルーツパーク

地図番号 9 10 15 16

ナゴヤドームの約2倍の広さの園内には、果樹園や世界中の珍しい果物を観察できる「世界の熱帯果樹温室」、フィッシングコーナーなど様々な施設があります。

～古 墳～

上志段味は約70基の古墳が集中する市内最大の古墳密集地で、「志段味古墳群」と呼んでいます。
古墳の出現から終末に至る歴史的な経過をたどることができる古墳群は全国的にも珍しいことから、平成26年10月に国史跡に指定されました。

埴輪氏武　しだみこちゃん

大久手古墳群

地図番号 8 9 14

西大久手古墳　地図番号 14

5世紀中頃に築造された墳丘長約37mの帆立貝式古墳。発掘調査で馬・人物・鶏の形象埴輪が出土。

東大久手古墳　地図番号 8

5世紀後半に築造された墳丘長約39mの帆立貝式古墳。円筒埴輪列や須恵器が出土。

大久手5号墳　地図番号 9

5世紀後半に築造された帆立貝式古墳。現在は古墳の半分が残っています。

白鳥塚古墳（国指定史跡）　地図番号 3

4世紀前半に築かれた市内最古の前方後円墳。墳丘長約115mで、熱田の断夫山古墳、犬山の青塚古墳に次ぐ県下3番目の大きさ。後円部に白色の石英が葺かれていたことが「白鳥塚」の語源であるとも言われています。

東谷山白鳥古墳（国指定史跡）　地図番号 3

6世紀末～7世紀初頭に築かれた直径約17mの円墳。ほぼ完全に原形を残す横穴式石室が見られる、市内唯一の古墳。

志段味大塚古墳（国指定史跡）　地図番号 9

5世紀後半に築かれた墳丘長約51mの帆立貝式古墳。五鈴鏡や馬具、武器など多くの重要な副葬品が出土。

勝手塚古墳（国指定史跡）　地図番号 8

6世紀初頭に築かれた墳丘長約55mの帆立貝式古墳。原形が非常によく保存されています。平成20・27年の発掘調査では墳丘を囲む円筒埴輪列を確認。

～神社・仏閣～

久岑寺　地図番号 8

慶長5年(1600)創建。度重なる水害のため、昭和3年(1928)字細川原から段丘上の現在地に移転。享保年間(1716～36)に当寺で修行していた怪力の「志段味小僧」伝説が残されています。

観音寺　地図番号 22

天正13年(1585)創建で、守山区大永寺町にある大永寺の末寺。江戸から明治にかけて寺子屋がおかれ、明治の初めにはおよそ20人の生徒がいました。

神明社　地図番号 22

享保9年(1724)遷座された古社。境内には山之神社や水神碑、神明用水記念碑があります。

【神明用水】明治8年(1875)着工、翌年竣工。庄内川から農業用水を引くため、村民が私財を出し合い、神明社の真下を通るトンネルを掘削して造った延長1,420mの水路。

常楽院（千体地蔵）　地図番号 13

8月14日の夜、千体地蔵堂の前では百八燈の盆提灯が、青年会の人達の笛の音に合わせて高く掲げられ、亡き人々の供養行事となっていました。

お堂の中には子供地蔵を中心に厄除けを祈念した千体地蔵

お堂の外には沢山の石仏 多くは西国三十三所観音像

山の神

旧暦2月7日と11月7日には、ヤマノコ（山の講）という山の神を祀る催事が行われていました。
この日は山に入ることが禁止されていました。

上志段味：字上島にあったものを明治42年(1902)勝手社に合祀
中志段味：字西山島と字大屋敷から諏訪神社本殿脇に移転
下志段味：西新外にあったものを明治11年(1878)八幡神社に合祀
吉　根：字越水、字寺ヶ根、字階子田、字下江から神明社境内に「山之神社」を設けて移転

吉根の山之神社

勝手社　地図番号 8

南北朝時代に、南朝方の武人・水野又太郎良春が吉野山の勝手明神を勧請したと伝えられています。
社殿が古墳の後円部墳頂に置かれています。

頂上には大きなヒノキ 遠くからもよく見えます

諏訪神社　地図番号 13

長野県諏訪湖畔から諏訪上社、下社を勧請。創建年は不詳ですが、寛文年間(1661～)には禰宜がいること、境内社に住吉社を始め7社があったことが記録に残されています。

八幡神社（下志段味）　地図番号 18

創建年は不詳ですが、本殿の棟札の最も古いものには貞享元年(1684)の銘があります。庄内川の度重なる水害のため明治5年(1872)現在地に移転し、明治33年(1900)新築再建しました。

八幡神社（吉根）　地図番号 33

創建年不詳。かつては現在地から北東約1kmの所にありましたが、後に北西約500mの所に遷りました。その後、庄内川の度重なる水害のため明暦元年(1655)現在地に移転。

龍泉寺・仁王門　地図番号 35 37

【本堂】延暦年間(782～806)、伝教大師最澄の創建と伝えられ、また弘法大師空海が熱田神宮参篭中、宝剣を同寺に奉納した事から熱田神宮の奥の院と称される名刹。毎年2月3日の「節分会」には多く参拝者で賑わいます。

【仁王門】
慶長12年(1607)再建の仁王門は国指定重要文化財

境内に復元された龍泉寺城（宝物館）
※日祝日のみ開館
円空作の一刀彫の馬頭観音、千体仏五百数十体も展示

旧暦5月18日（明治初年から9月18日、その後新暦10月18日）には近郷から「おまんと」が出されていました。
その馬の首をかたどった張り子細工の紅白の縁起物は、春駒と言われています。